

第2部 本研究の実践的な基礎

第6章 ベトナムにおける環境問題と環境教育の課題

第1節 ベトナムにおける環境問題

発展途上国であるベトナムにおける環境問題は、世界の発展途上国の環境問題と共通性がある。例えば、人口の急激な増加や住宅・衛生施設の不足、不備及び栄養の低さなどの貧しさからくる生活上の問題である。それに加えて、ベトナムは歴史的に、他の発展途上国とは別の環境問題に直面している。ベトナムの固有の環境問題を述べるときに、二つの顕著な点が指摘できる。一つは、ベトナムの歴史の中で長期にわたる戦争による環境破壊であり、もう一つは1986年からドイモイ政策という大規模な経済改革政策が導入され、ベトナムの経済が比較的の高い成長率を達成していることに起因する環境問題である。

1.1 戦争による環境破壊

1.1.1 森林破壊

ベトナムの歴史は長期間にわたる民族解放の戦いの歴史であり、そのため、ベトナムの自然環境は戦争によってひどい被害を受けている。フランス統治時代には、フランス政府の政策によって、ゴムやコーヒや茶などが植えられ、かなり広い面積の森林が伐採された。それによりベトナムの森林の面積は国土面積の43%になってしまった(L. Q.An, 1998; Vo Quy, 1998)。

ベトナム戦争においてアメリカは、爆弾を1300万トン、化学兵器を7200万リットル使用した(写真1、2、3、を参照されたい)。アメリカが化学兵器を使う目的はまず、ベトナムの解放軍とゲリラ兵の基地を消滅するため森林と耕作地を破壊することであった。次にベトナム人をアメリカと傀儡政府が支配する集中キャンプや地域に強制移転することである。最後に、土地の多くの栄養分をなくすためである。化学兵器による被害は甚大で、被害を受けた土地は約3万平方キロメートルであり、被害を受けた人口は約196万人であった。被害を受けた土地の中では、森林防護林とマングローブが多く、その面積は200万ヘクタールであり、その内、104万7千ヘクタールは現在も、回復されておらず、少なくともベトナム南部の森林の12%と耕作地の5%は1回から数